

## 4.環境課題の整理

### ○生物の生息・生育環境

瀬・淵



わんど・たまり



水際植生



礫河原



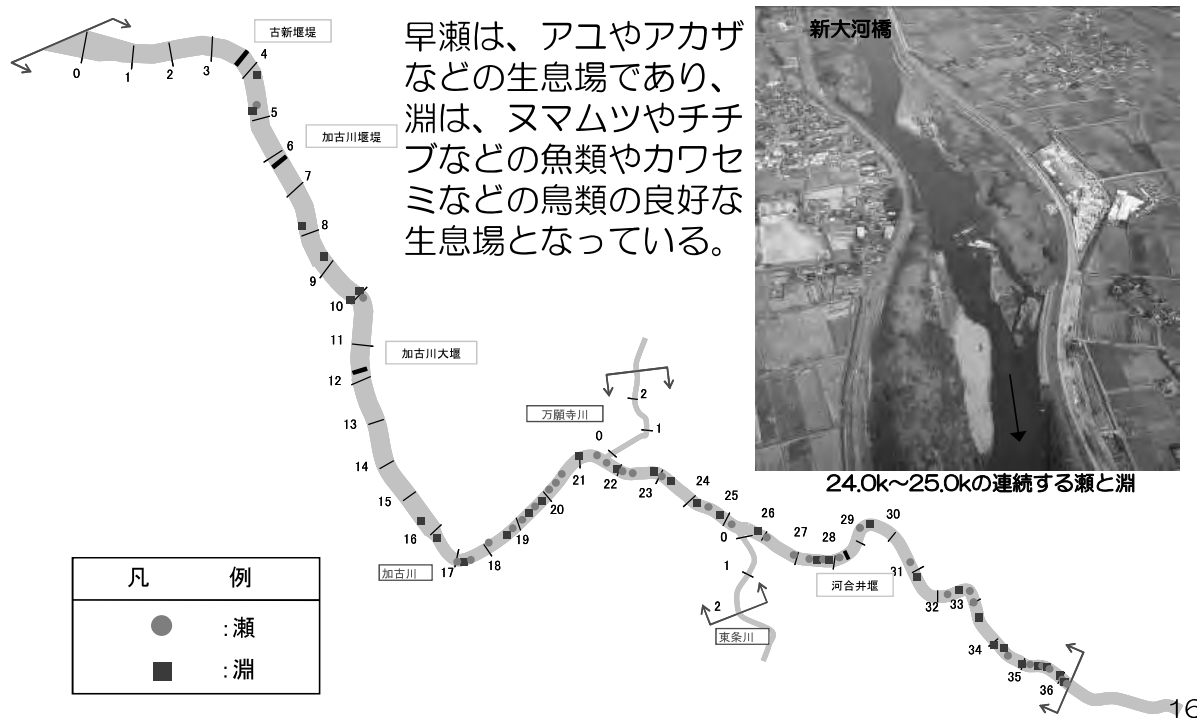
河口干潟



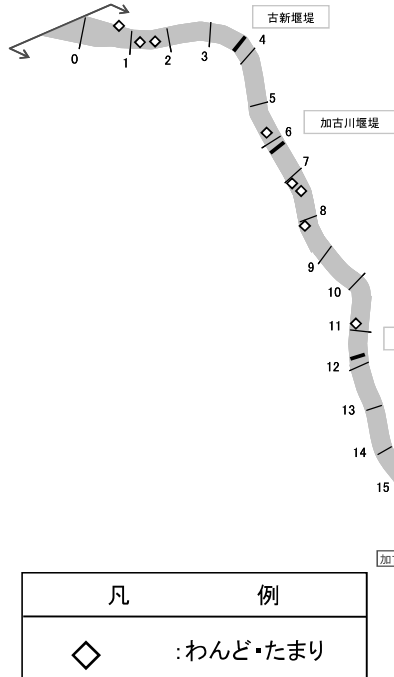
### ○魚類の遡上

### ○河川景観

## 多様な生物の生息・生育場である瀬・淵



## 多様な生物の生息・生育場であるわんど・たまり



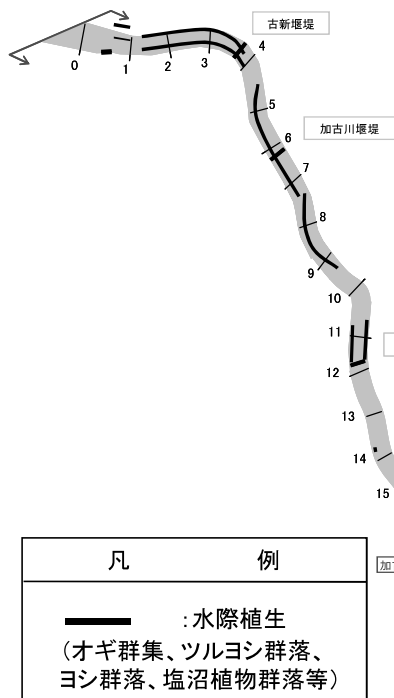
わんど・たまりは本川とは異なった止水環境を形成することで止水性の生物の生息空間、出水時の魚類等の避難場所が創出されている。



5.0k~6.0kのわんど・たまり

凡	例
◇	:わんど・たまり

## 多様な生物の生息・生育場である水際植生



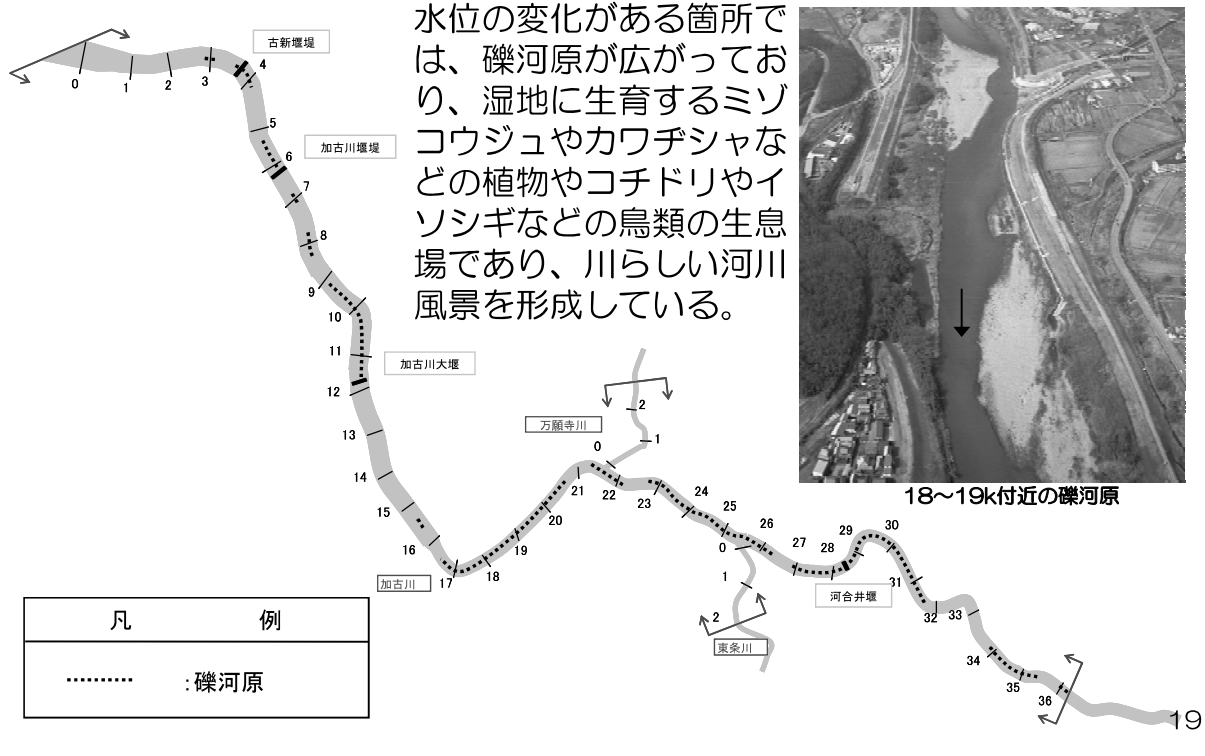
ヨシ群落、ツルヨシ群落などの水際植生は、ほ乳類や鳥類、昆虫類などの多様な生物の生息場となっている。



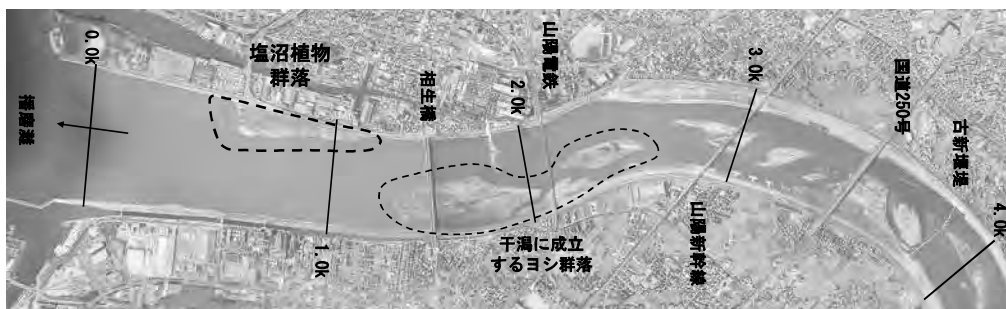
19.7k付近のツルヨシ群落

凡	例
—	:水際植生 (オギ群落、ツルヨシ群落、ヨシ群落、塩沼植物群落等)

## 多様な生物の生息・生育場である礫河原



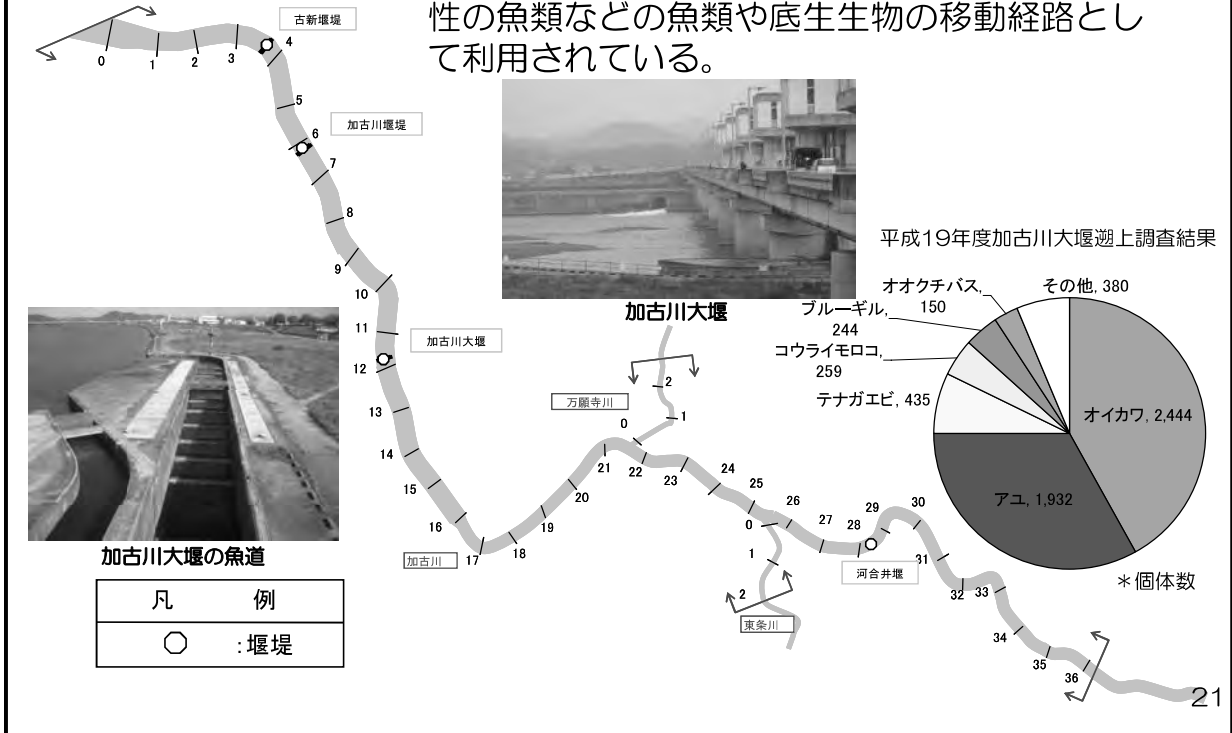
## 河口干潟環境



- ヨシやアイアシ、シオクグ、ナガミノオニシバなどの塩沼植物群落が形成されている。
- 砂質海岸に生育するコウボウシバやハマヒルガオなどの砂丘植物群落が小規模であるが生育している。
- 汽水域のヨシ等の抽水植物の発達した湿地に生息するアシハラガニやオカミミガイや、河口の砂泥地に生息するハクセンシオマネキやヒロクチカノコガイなどの底生動物が生息している。
- 良好な干潟環境景観を有している。

## 魚類の遡上

堰堤に設置されている魚道は、アユなどの回遊性の魚類などの魚類や底生生物の移動経路として利用されている。



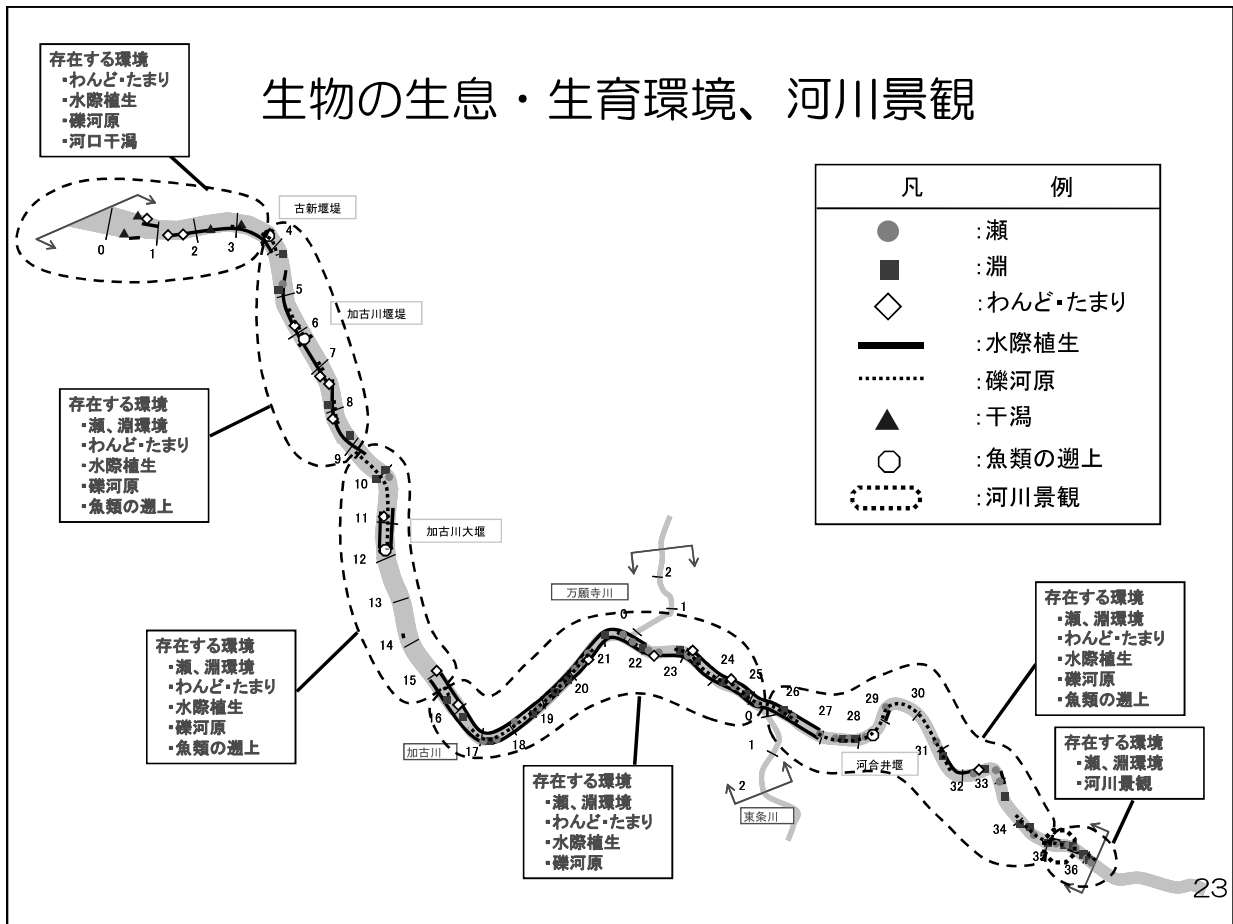
## 良好な景観

### 【闘竜灘】

- ・ 滝野大橋より上流には「闘竜灘」を中心とした広い露岩地がみられ、景観上」の特徴となっている。
- ・ 闘竜灘は、河道いっぱいに奇岩が起伏し、激しい流れが岩を乗り越えて流れる様は巨竜の躍動にも似ている。
- ・ 舟運の最大の難所になっており、岩石を掘削して水路が造られた。



## 生物の生息・生育環境、河川景観



## 5. 考えられる具体策の考え方

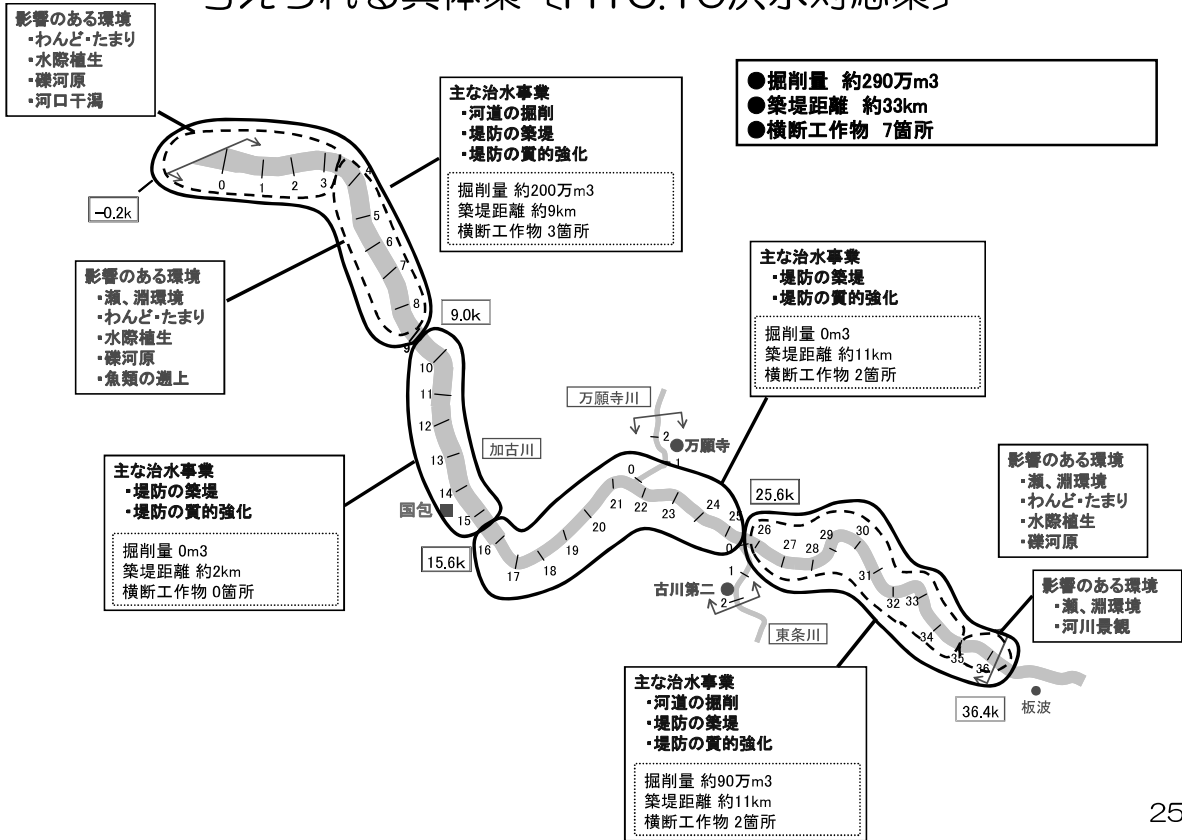
検討メニュー	考えられる具体策
堤防の整備	流下能力確保に有効であり、環境影響が少なく、コストは小さい
河道掘削	流下能力確保に有効であるが、環境影響が大きく、コストは小さい
横断工作物（堰堤、橋梁）の改築や統合	流下能力確保に有効であるが、環境影響が大きく、コストが大きい
洪水調節施設の整備	流域内に建設するための適当な場所が少なく、環境や社会的影響が大きく、コストも大きい
堤防のすべりや浸透への対策	堤防安定性を確保するため必要

\*ため池の利用、森林の保全：現在の状況を保全し、洪水を安全に流下させるための機能を維持する。

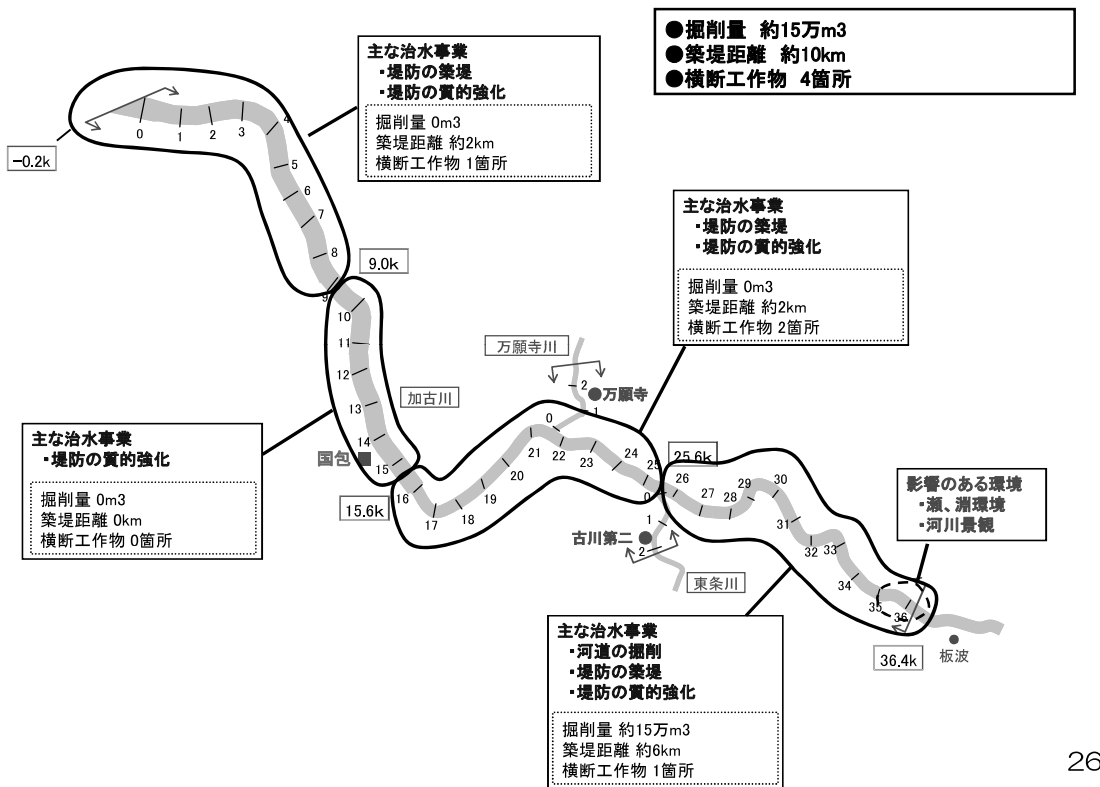
↓

考えられる具体策＝築堤を優先し、まだ流下能力が不足する場合、河道掘削や横断工作物の改築を行う

## 考えられる具体策〔H16.10洪水対応策〕

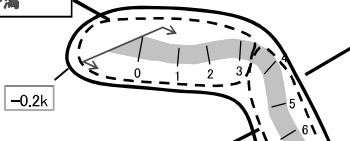


## 考えられる具体策〔H02.9洪水対応策〕



# 考えられる具体策〔S58.9洪水対応策〕

影響のある環境  
 ・わんど・たまり  
 ・水際植生  
 ・礫河原  
 ・河口干潟

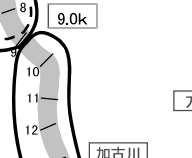


主な治水事業  
 ・河道の掘削  
 ・堤防の築堤  
 ・堤防の質的強化

掘削量 約90万m<sup>3</sup>  
 築堤距離 約9km  
 横断工作物 1箇所

●掘削量 約95万m<sup>3</sup>  
 ●築堤距離 約25km  
 ●横断工作物 4箇所

影響のある環境  
 ・瀬、淵環境  
 ・わんど・たまり  
 ・水際植生  
 ・礫河原  
 ・魚類の遡上



主な治水事業  
 ・堤防の築堤  
 ・堤防の質的強化

掘削量 0m<sup>3</sup>  
 築堤距離 約9km  
 横断工作物 2箇所

主な治水事業  
 ・堤防の築堤  
 ・堤防の質的強化

掘削量 0m<sup>3</sup>  
 築堤距離 約1km  
 横断工作物 0箇所



影響のある環境  
 ・瀬、淵環境  
 ・わんど・たまり  
 ・水際植生  
 ・礫河原  
 ・魚類の遡上

主な治水事業  
 ・河道の掘削  
 ・堤防の築堤  
 ・堤防の質的強化

掘削量 約5万m<sup>3</sup>  
 築堤距離 約6km  
 横断工作物 1箇所

